

1 自然菜園ってなに?

文・竹内孝功 イラスト・さげさかのりこ

ぼくの自然菜園へ
ようこそサトイモと
ショウガ

カエル

クモ

カマキリ

みず
水ナスと
ダイズオクラと
スイカ

バジル

ラッカセイ

トマトとニラ

ムギ

ミミズ

モミガラ

キャベツと
レタス

テントウムシ

ゴマと
サツマイモ

トビムシ

あか
赤クローバーこんりょう
根粒りよくひ
緑肥にぎやかな
火田ね〜

ミツバチ

ペロツノ

はたけ すみ
畑の隅は
コンニャクで
イノシシよけくさ
草マルチあくて
晩生
ダイズごくわ せ
極早生
ダイズ

アズキ

か
マメ科の
こんいん
混植ウネいろんな根で
にぎやかだなあかんそう
この乾燥を好む
さくもつ
作物のウネなつ やさい
夏野菜ウネた 田んぼの横は
みず す 水が好きな作物

みんなで助けあって共さだち
少し具体的にみてみよう。上の絵は、ぼくの畑をかんたんに描いたものだ。たくさん種類の植物や生きものがいるよね。

ふつうの畑では、ひとつのウネにひとつの野菜を植える。でもぼくは、いつも相性のいい数種類の野菜を一緒に植える。深く張る根と、浅く張る根。お互いケンカしないような組み合わせを考えて。

野菜や草の無数の根が、耕すように土中に張りめぐらされ、やがて枯れると、スポンジのような根穴ができる。そして、次の野菜はこの根穴を通してさらに伸びていく。根とミミズなどの生きものの力で、人が耕さなくても、土はどんどんやわらかくなっていく。

こんなふうに自然菜園では、たくさんの野菜と草が、よりよく生きようと根を張り土をそだて、いろいろな生きものたちと共存しながらそだつんだ。

自然菜園は「野菜の里山」
こんにちは。ぼくは長野市で自然菜園を営んでいる竹内孝功といいます。「自然菜園」ってどんなのか、わかるかな? 特徴を挙げると

- ・人はほとんど耕さない
- ・ほとんど肥料をやらない
- ・草は抜かずに、刈って野菜の根元に敷く

という感じ。ふつうの野菜づくりの教科書とは正反対の方法だ。でも、山や野原では、人が手を加えなくても草木は立派にそだっているよね。

野菜は長い年月をかけて、おいしくたくさんとれるように人が改良してきたから、自然の草木とちがってまったくの放任ではうまくいかない。そこで、人が少し手を加えてきた里山のように、自然と手を取りあいながら野菜を育むのが自然菜園なんだ。